

晴耕雨読 32

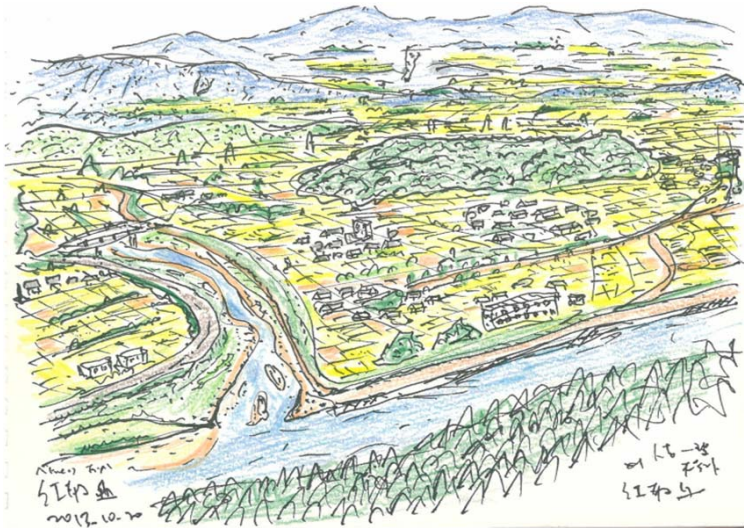
Vol. 32 December 2013 seikouudoku

●発行:株式会社 建設プロジェクトセンター
建設コンサルタント・補償コンサルタント・測量業登録
〒869-1234
熊本県菊池郡大津町引水215-1(技術研究所)
本社:熊本県市/八代支店/合志営業所
TEL:096-293-4400/FAX:096-293-4885
E-mail:kenpro@muc.biglobe.ne.jp

平成26年度会員募集
k-kan@ksn.biglobe.ne.jp

Rural environment

秋の風物詩であるモミジ・ハゼ・イチヨウ等の落葉樹が彩りを添えて季節となりました。皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか？



■ 人吉市紅取山

紅取山は人吉城西南方向にある標高330mの小高い丘。ここからの眺めは人吉盆地のど真ん中を球磨川が悠々と流れ、眼下には点在する集落と田園風景。そして遙か遠くに紫立ちたる市房山とその背後には九州山地。ここを訪れたのは今年10月30日のたわわに実った稲の穂が色づく季節。相良700年の歴史の重さを感じながら、犬童球溪の「旅愁」を思い出しました。H/N

右スケッチの柿は、昔から我が家にある「ガンザン」の葉。柿には表と裏年があって、隔年毎に美味しい柿を食べていた。ところが、ここ2・3年、ガンザンの実は、食べる前に落ちてしまう。夏の猛暑のせいかわからないが、現実として柿を食べることが出来ない。春に芽をふき、夏は青々と葉を茂らせ、秋には真赤な葉が彩りを添える。このガンザンの木と共に一年を通して過ごすのが、私の大切な時間です。H/N



実

道徳塗説

「子日く道に馳せて 塗に説くは 徳をいれ素つなり」

孔子は「論語」の陽貨篇でこういませしている。私もこのいましめの道徳塗説を肝に銘じて徳を考えてみたいと思います。H/N

■ 現代語訳

中途半端にしか理解していない事を他人に教えるのは、相手にとっても自分にとっても良いことではない。との意味合いです。



農を楽しむ

平輪農園 / 11月

■ 土の中からフクロウ現る！！

先月、毎年大人気の平輪農園の里芋掘りに参加してきました。3才の子どもから80才になるおばあちゃんまで頑張って収穫した結果、なんとっ!!リアカーいっぱいの里芋に大根葉が収穫出来ました。その中にフクロウにそっくりな親芋を発見。フクロウは賢い鳥で、目が効くことから未来を予見する・開拓する・と言われていますが、最近では「不苦労」や「福郎」のゴロ合わせから福を呼ぶモノとされているそうです。25年度の締めくくりに福が訪れますように。(笑)T/B



里芋の親を食べる人は少ないが、この親芋こそが美味しいとの事。きんぴらやおでんにして食べると最高！！

まだまだ掘れますバイ！！



建プロの根性「茄子とアサガオ」



左写真は、今年5月に会社の畑に植えた茄子です。夏の7月～8月には次から次に収穫することが出来き、我が家の食卓には茄子を使ったおかずが何度も並びました。茄子は夏野菜のイメージがあり、夏が旬だとばかり思っていました。夏から秋にかけてが旬だそうです。9月になると収穫間隔もだんだんと開きますが、建プロの茄子もアサガオも暫くは健在なようです。T/O

福



謎の隕石？

11月23日夕方5時半頃夕焼け空になにやら光る物体を発見！はじめは飛行機か何か？かと思ひ見ていると、ゆっくりと光がのびていき、その様子は流れ星をスローで見ている様な感じでした。オレンジ色の閃光は2つあり10分程度で山の方へ消えていきました。??? T/B



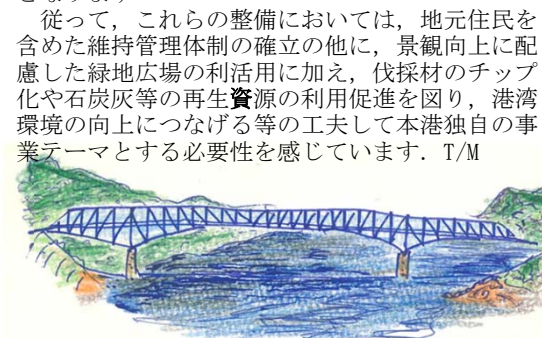
■ 大宰府付近

土木文化を楽しむ

外国人から見る港町の良さは？



国の「重点港湾」に選定された八代港は、古来より対外貿易港として九州中央部に位置する地理的優位性から栄え、近年、九州縦貫道・南九州道・九州新幹線など最高の利便性と貨物の集積に適した場所と注目を浴びています。同港は「県の産業を支える物流拠点港」と位置付けられており、港を活用したポートセールスの強化によるサービス提供と環境再生・景観向上を図ることで、おもてなし空間と親しまれる港づくりが重要視されています。工業都市に位置する本港の場合、人の集まるアイデアに加え整備後の維持管理が今後の課題となります。従って、これらの整備においては、地元住民を含めた維持管理体制の確立の他に、景観向上に配慮した緑地広場の利活用に加え、伐採材のチップ化や石炭灰等の再生資源の利用促進を図り、港湾環境の向上につなげる等の工夫して本港独自の事業テーマとする必要性を感じています。T/M



●鹿児島県阿久根市と長島町に架かる黒瀬戸大橋。1974年4月完成・1990年通行無料化延長502m・鋼トラス橋

■後記：熊本県内には、スケッチや写真に残したい風景や美味しい・懐かしい郷土料理等があります。まだまだ、気をつけて見るとビューポイントや歴史の重みを感じる文化的景観などが資源が沢山残されています。上記O内の四文字「資実楽福」は、自然を楽しみ、実りを食すれば、福を招くという意味合いの造語です。

身近な環境を楽しむ

Human Architectur

■ 秋のツブキが場を盛り上げる

木の葉も遅ればせながら色を染め、ちょっと冬を予感する気温も混じる季節となりました。あの猛暑からあつという間に正月を迎えようとしています。11月後半からは、二十四節気第20番目の小雪（しょうせつ）です。

【わずかながら雪が降り始めるころ】と言われるれています。この季節には、キンモクセイ・ウスギモクセイ・ヒイラギモクセイなどが、香りを風に載せ四季の移ろい(時期)を知らせてくれます。

また、芦北・天草地域の海浜斜面地では、ツブキの自然植生が多くみられます。この地域の特産品でもあるツブキの味噌・醤油加工品は、私の好みの1品です。フキが夏緑性(落葉性)であるのに対して、ツブキは常緑性で、食感は違います。双方とも有毒成分を含有しますので、灰汁抜きを十分に行なって食べないとリスクもありますので、食される場合にはご注意ください。ツブキの名は、艶葉露(つやばぶき)、言い換えれば「艶のある葉のフキ」から転じたと言われています。

人も艶のあるうちが・・・です。働く(端を楽にする)楽しみが必要なようです。A/T



■ 夏のフキ葉

■ 秋のフキ花



■ 地域のPRにじえじえ

■ ひまわり畑にくまモン親子現る！

天草市の瀬戸大橋から西へ約10分、国道266号線を牛深方面に進んだ宇宇土小学校前の沿道に、11月中旬満開のひまわりを見つけました。面積50アール、約5万本のひまわりで田んぼ一面が黄色一色、クマモンの親子が旅姿で愛嬌を振りまき、道行く人の目を楽しませてくれます。B/I

“だってみんなに見てほしいんだモン”

■ 吉無田高原の風景を楽しみながら歩く

～フットパス体験～

吉無田高原で「小径を歩く」フットパス(FP)に参加しました。約6kmのコースをシニアから5才児まで総勢30名程度が、高原眺望・茶園の緑・むべ取り・ムカゴちぎり・山野草・樹木観察やだべりをしながら約3時間景色を楽しみながら歩く工程はあつという間。(右写真上)

なかでも、地元ばあちゃん達手作りのおもてなしティータイムが最高！お茶に漬け物・里芋の塩ゆで・ぜんざい・一文字。又、木によじ登りムベ採りするシニアはまるで子供。モミジの紅葉と杉・檜の緑と太陽のコラボはカメラの集中攻撃、奇木林はまるでトトロの森か風の谷のナウシカの様。「宮崎駿監督に見せたら、引退しないと言うだろうな！」と参加者の独り言。最後は、そりリフトで草スキー場頂上へ登り、不知火・有明海・阿蘇市・遠く雲仙を高原眺望しながら猪汁と弁当、ムベを食べ解散。心と体の健康を自然から頂いた1日でした。こうした素晴らしい高原景観の中に、公益景観の悪化+草原の光合成減少+降雨の涵養減少に比べてソーラー発電のCO2 減少のデメリットが大きいと思う機会でもありました。T/M



■ 地元食材のおもてなし

楽

資

■ 渓谷をつなぐ白いリボン橋

四季の変化を楽しむのは日本に住む私たちの特権です。四季の変化のひとつとして紅葉があります。先日紅葉を見に五家荘まで行ってまいりました。ここには当時日本一の長さを誇った梅の木轟吊橋(PC吊橋)が架かっています。この橋は1本のケーブルも使わないPC構造となっており、「深い渓谷に白いリボンを張り渡したよう」と表現されている通りでした。急峻な渓谷に吊橋を架設することは容易なことではなく、当時の土木技術者らの情熱と技術の高さに感銘を受けました。私が日々携わっている土木分野は日進月歩の世界であり、常に最新技術にアンテナを張り、今後業務を遂行する上で提案の重要性を感じています。K/N



■ 砂川のジミに気づいたこと

右の写真上は宇城市松橋町の砂川という河川です。現場作業で昼食の弁当を景色の良いところで食べたいと思い探した場所です。兎に角、海沿いの川に岸では、綺麗な水と絶賛するほどの眺めでした。護岸堰堤コンクリートに腰掛け河道を眺めると、数人の地元の方が作業をしていたので伺ったところ、なんと、ジミ貝を採られている最中でした。私のイメージとしては、淡水の沼・湖に生息しているものだと思っていましたので、灌漑深い気持ちになりました。今年は、富士山が世界自然遺産に登録されたが、その根幹は地元の方々による地道な自然環境保護活動からではないだろうかと思いました。この砂川も、ジミ貝を通して町ぐるみによる環境保全の取り組みの成果だと確信した。自然の猛威に対し、人間の力は微力であるが、環境保全であれば、日常の意識・行動等により美しい自然を、後世に残せるものだと感じました。写真下は、私の可愛い手の平に載せたジミ貝さんです。K/H

